

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201435		
法人名	株式会社ケアーサービス希慈		
事業所名	グループホーム希慈	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市新成3丁目9-17		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 12 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 14 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護させていただきます」のホーム理念を基にお一人お一人の生活を第一に考え穏やかに明るく、ゆったりと過ごして頂けるように職員は、この言葉を常に意識し利用者様本位の支援を行っている。また、一日の大半を過ごす共有リビングは吹き抜けとなっており事業所全体が明るく居心地の良い空間に、常に利用者様の集いの場になっている。月に1回は家族様と利用者様の絆を大切に日常生活の風景や行事などのスナップ写真と共に、お手紙を添えて郵送し、本人様の生活などを家族様、職員間でも共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災復興で住居建築が進む新興住宅地の一角にあるホームは、JR渡波駅から北に約800mの所にある。平屋建てで陽当たりの良い室内は、バリアフリーで木の温もりに包まれている。ホーム理念に基づき職員個々が目標を掲げ、入居者に寄り添ったケアを実践している。「コロナ禍で面会できずに心配」との家族意見に、担当職員が手書きの便りに写真を添え、毎月届けて喜ばれている。月1回程度でホームから家族へ電話連絡する際に、居室から携帯電話で入居者と家族の会話を支援している。外出を控えているため、ホーム内で実施する流しそうめんやミニ運動会等を企画し、入居者と職員全員が参加し楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム希慈)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念及び職員の個人目標を一人一人挙げてケース記録に添付し、ケース記録を開いたときに常に確認、振り返りが出来る様になっている。	開設当時からのホーム理念を継続している。年度初めに理念の振り返りがあり、職員一人ひとりが「共に笑いあり、涙あり、日々をひた向きに」等、入居者に寄り添った年間目標を掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している為、市報等の受け渡しがある。また、町内の新しい世帯が増えてきている為2つに分けた方が良いかどうかのアンケートと、その理由について記載し意見等も出した。	コロナ禍のため地域交流は特にない。隣家から夏季に大量発生するアリ等の相談があり、協力して駆除を行った。地域の薬局に処方箋をFAX送信することで、薬はホームに配送をされる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんの力をお借りして書面での運営推進会議で施設の事を報告し機会があれば民生委員さんより発信して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	書面での運営推進会議の開催であったが毎月開催した行事や、次回の行事予定、職員の勉強会の内容等を報告、意見書と封筒を同封し質問等を記載して返信して頂き、サービスの向上に活かしている。	メンバーは地域包括職員、民生委員、家族等で構成され、入居状況や行事の様子、意見等への回答を報告している。管理者が行う内部研修の講師を、職員にしてはどうかの意見を採り入れ、実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない点や心配事が有ると市町村担当者へ連絡をしアドバイス等を頂いている。また、介護更新の手続の代行や生活保護関係の手続等で出向いた際に相談事が有れば助言等を頂いている。	生保受給入居者のインフルエンザ予防接種手続きや、同一入居者の救急搬送が連続した際の報告について相談し、助言を得た。コロナワクチン接種の医師が決まらなかった際、往診医を紹介、依頼してもらった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外、玄関は常にオープンにしおり帰宅欲求のある利用者様や、落ち着かれずに施設内を歩かれる利用者様に対し、制止はせず、安全を配慮した上で見守りや行動を共にし身体拘束に繋がらないケアをしている。また身体拘束適正委員会3か月に1回、職員会議の前に行い指針等の確認をしている。	家族の了承を得て、3名に転倒防止予防のベッドセンサー使用がある。「自分がして欲しくないことはしない」を念頭に、職員相互が協力し合ったケアを実践している。適正化委員会での検討内容を直ぐに職員会議で提起し、全員への落とし込みを実践している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に利用者様の声掛け等が不適切になってきているか、また、自分自身が「してほしくないケア」になっていないか再確認しグレーゾーン等の確認の場を設けることよって虐待が見逃されないよう注意し、防止している。	食事を終え直ぐに立ち上がる方に、「今薬を持って来ますからね」と語りかけている。車イスでテーブルに寄せると手で押すのは窮屈だからではと相談し、間を空ける様にした。身体拘束と虐待の研修を年2回実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度が必要な利用者様が活用できる様に支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は契約書、重要事項説明書などを用いて家族様と一緒に確認し説明をしながら不安な点や疑問点などを伺いそれにお答えしながら理解・納得を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でご家族様の面会制限は有るが、お支払いなどで来設された際は、必ず近況報告を行い、その場で意見や要望を伺っている。	暴言や物に当る方の家族からホームに馴染むか不安との相談に、直ぐに声掛けする等のケアで改善が見られる。どら焼き、果物を食べさせて等の要望に応じている。推進会議録送付の際、要望等伺いを入れている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に職員の意見や、提案を確認している。また、声に出来ない意見や、要望などは自由に投函できる投書箱もホールに設置しており思いのままに意見が出来るように配慮している。	投書箱は職員会議で開閉し、全員で改善検討をしている。電話の応答が遅い、洗浄用具に油分残存がある等の意見に、置く位置の変更、使用後の注意喚起等で改善した。家庭都合等による勤務変更に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、意見や相談を聞き入れ出来る限り働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実力を把握し、内部研修を割り当て職員が講師をしている。人に教えるという事は、まず自分が勉強しなければ出来ないと考えている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はグループホーム協会主催の勉強会などに出来るだけ参加していたがコロナ禍によって機会が無くなった。しかし、定期的に、ご挨拶に訪問して下さる施設さんや、市主催の説明会などで会った施設さんと情報交換等は行っている。	年に数回、近隣にあるホームの管理者が来訪し、コロナ禍の対応や訪問医関連等の情報交換がある。集団指導の際、他の事業所と平均介護度等の意見交換をした。グループホーム協議会は開催されていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で新規利用者様の状態を把握し、本人の希望や要望を取り入れて安心して穏やかな生活が確保出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や入居説明の際にホームでの生活をする上で困っている事や不安な点、要望などを確認し家族様が納得されるまで話し合い信頼関係が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集のチェック欄を把握し、本人様がまずその時に必要としている支援を見極めサービスに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食やティータイムなども共にし職員が利用者様の輪の中に入り日々の談笑などを通し信頼関係を築きながら、お互いの関係作りを行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の、ふとした仕草や、ちょっとした変化も見逃さずに家族様へ報告を行っている。月に1度は本人様の写真とともに担当職員の手紙を添え近況の状態を把握して頂き家族の絆を深めて頂いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から信頼している、かかりつけ医への受診が出来る様、通院介助を行ったり、コロナ禍の面会制限の中、やむなく面会が叶わなくなってしまっている状態では有るが電話などで話が出来様に支援を行い、関係性が途切れないようにしている。	コロナ禍だが、家族や職員と馴染みの理容室、美容室に出掛けている。通院の帰路には、昔懐かしい道等を回っている。気の合う入居者同士、ホールで一緒にテレビを見たり、居室ベッドに腰かけて談笑している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の食事の席の配置に気を配り利用者様同士より良い関係で関わり合いが持てる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者様、ご家族様等との関係が途切れない様にし相談等を受けた場合はアドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方一人一人にあったケアを提供する為に、利用者様の日々の会話を大切に、そこでヒントを得ながら本人の意向や思いを引き出す声かけを行っている。	何気ない会話の反応を掴み、支援に繋げている。テレビを見ながら職員の「お寿司美味そう」「洋服可愛いね」等の言葉に、「食べたい」「着てみたい」の言葉を聞き、手毬寿司の提供と家族が花柄の服を用意し喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の段階から、ご本人様や、家族様からの情報収集したり、入所後の利用者様の会話から情報を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の一日の生活スタイルを重視し、ADL・残存機能力の把握に全職員が努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行っているミーティングやカンファレンスで意見を話し合い主治医や家族からの意見を統括しケアプランを作成している。	日々の記録書記入やカンファレンスを徹底し、ケアプラン見直しに反映している。入院前に普通食だった方に、退院時に誤嚥防止で刻み食提供の医師指導を受け変更した。毎月家族に、評価確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をケース記録に記載する他、すぐに状況が確認出来る様に生活記録表を作成し業務前には必ず確認している。また、朝の申し送りでも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活面で、その時々生まれるニーズに対して柔軟に対応し、体調面などの不安が有る場合には定期受診の他に専門医の受診等も行える様徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の情報を得ることが難しくなっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族様の希望を基に入所前から信頼し大切にしてきた、かかりつけ医の受診も維持できている。また、主治医への相談等もいつでも行えるよう、かかりつけ医との関係作りも大切に利用者様にとって適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医への通院は主に職員が支援している。家族が付き添う際には体調や生活等の記録を渡し、結果は受診記録に記載している。緊急時はかかりつけの方が多し市立病院等に救急搬送で対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はしていない為、体調面で状況の変化が現れた際は、かかりつけ医を受診し担当医へ状況を報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に家族様と定期的に連絡を取り状況の把握に努め、利用者様が安心して戻って来れる様に配慮している。また、退院の際には可能な限り、事前に病棟へ伺い本人様の状態把握すると共に医療担当者に留意点などの確認を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実績は無いが、契約時にターミナルケア(看取り)について十分な理解を得て頂き同意して頂いている。出来るだけ、本人、家族様の希望にそう様支援している。	昨年、重度化で点滴等が必要となった方に、訪問看護師による対応と主治医の病院紹介から入院の支援をした。ターミナルケアについて成文化しているが、医師を交え面談時の記録に、説明医師名記入の要否を確認されたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し社内研修を定期的に関催し、応急対応・初期対応について知識と技術の向上を図っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練・通報訓練を行っている。また、災害時の対応についても内部研修を行い避難する方法を身につけている。	夜間想定を含む3回の訓練を実施した。入居者名簿の持ち出しがなかったとの消防署指摘を受け、ホール内の目につく場所に置いた。地域住民の参加はなく、町内会等の協力を得て参加を検討されたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は完全個室性であり、プライバシーが守られ着替えや、ポータブルトイレへの排泄なども安心して行える。また、排泄などの声がけや、リハビリパンツ、パットの使用なども他者から気づかれない様配慮している。	「ちゃん」付けを希望する1名を除き「さん」付けで声掛けしている。トイレに座る際、気付かれないようにパッドを外し、漏れはないとの配慮がある。失禁した際は、「一緒に来ていただけませんか」と声を掛け、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の小さなサインや変化を見逃さずに思いや希望等を受け入れながら自己決定をして頂けるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を中心に生活をして頂き、施設の流れて時間を決めるのではなく、一人一人のペースを大切に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし、髪型や着替えを自由に、それぞれの好みで自己決定出来るように支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や配置は一人一人の好みやADL、嚥下状態などを把握し行っている。また、職員と共に片付けも行っている。	日常会話から好きな食べ物等を聞き、刺身やおはぎを誕生日等に提供している。行事食では花見弁当、運動会のおにぎり、卵焼き等で雰囲気を出している。要望に応じたお好み焼きを、一緒に焼きながら味わった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様、一人一人の好みや、食事の状態と形態を把握し支援している。また水分は一日1000m~1200m以上飲んで頂ける様飲み物の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯を使用している方等、一人一人必要な支援を把握し利用者様の個々の力に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを把握しオムツ使用の利用者様へ出来るだけトイレにて排泄して頂けるよう声がけ誘導を行っている。また、排泄チェック表を活用しパターンを把握している。	夜おむつ使用の方は1名だが、日中は車椅子の方も全員が布パンとリハパンで、トイレ排泄を支援している。夜間おむつ使用の方を起こす誘導を繰り返すことで、トイレで排泄するようになりパッドに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、便の状態、排便の有無、本人様の状態などを総合的に判断し適切に排便コントロールが出来る様支援している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時間帯は制限しておらず安全に配慮しながら、ゆったりお話をしたり音楽を聞きながら入浴を楽しんで頂いている。また、気分の優れない日や体調によって翌日に入浴をして頂くなど臨機応変に対応している。	週2、3回の入浴で、「寒いから今日はいい」との場合は無理強いせず、翌日等で支援している。音楽と職員の手拍子に合わせて歌いながら入浴を楽しむ方もいる。季節には菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のライフスタイルを尊重し、好きな時間に休んで頂ける様配慮、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を目の届く所に管理し薬の目的、副作用、用量、用法をいつでも確認出来るようにしている。また、処方内容、錠数などの変更等があった場合はその都度職員全員に薬の説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や行事等の際に各利用者様の状態に合わせた役割をお願いし充実した生活が送れる様に支援している。また、お手伝いして頂いた際に職員は感謝の気持ちを伝えている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、思うように外出支援が出来ていないが、個々の通院の帰りに少し遠回りし普段見れない所へ行ったり、また地域の区長さんをお願いし区長さんが管理している神社へ誰もいない時間帯に神棚を開けて頂き皆で初詣に出かけられた。	初詣の鳥浜神社参拝には、久しぶりに入居者全員でお参りすることができた。外出する機会が少ないため、通院時の帰りには震災後に整備された真新しい道等を通る等で支援している。天気の良い日には、車椅子の方もホームを囲む道の散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出や買い物の機会が減っているが、通院時などに必要に応じて売店などでお金を使える時は対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に沿い、電話を使用したい時には支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースのリビングは天窓から差し込む光が明るく冬でも暖かさが感じられ、ゆったりと過ごせる空間になっている。また、季節ごとの装飾品や、思い出の写真などを張り居心地の良い環境の工夫もしている。	陽当りの良いホールにはソファがあり、ウッドデッキでは日向ぼっこを楽しんでいる。ホール壁面には季節ごとに雛飾りや桜、兜飾りの他、思い出の写真が貼られている。加湿器、空気清浄器もあるが、朝と昼には換気や消毒を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のプライバシーに配慮し、一人の時間も大切にしながら気の合う利用者様と交流が図れるように配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や慣れ親しんだ物を持って来て頂くように家族様と相談し、できるだけ自宅との環境に近い状態で不安なく、安心して生活を送って頂けるように工夫をしている。	洗面台やクローゼット、ベッド、エアコン等が配置されている。使い慣れた椅子、テレビ台を置いたり、孫の写真や造花を飾っている方がいる。1人で寛ぎながらテレビを見ている方や、計算問題を解いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しながら各利用者様の状態の把握に努め、一人ひとりの「できること」「わかること」を生かし自立した生活が送れるよう工夫している。		